


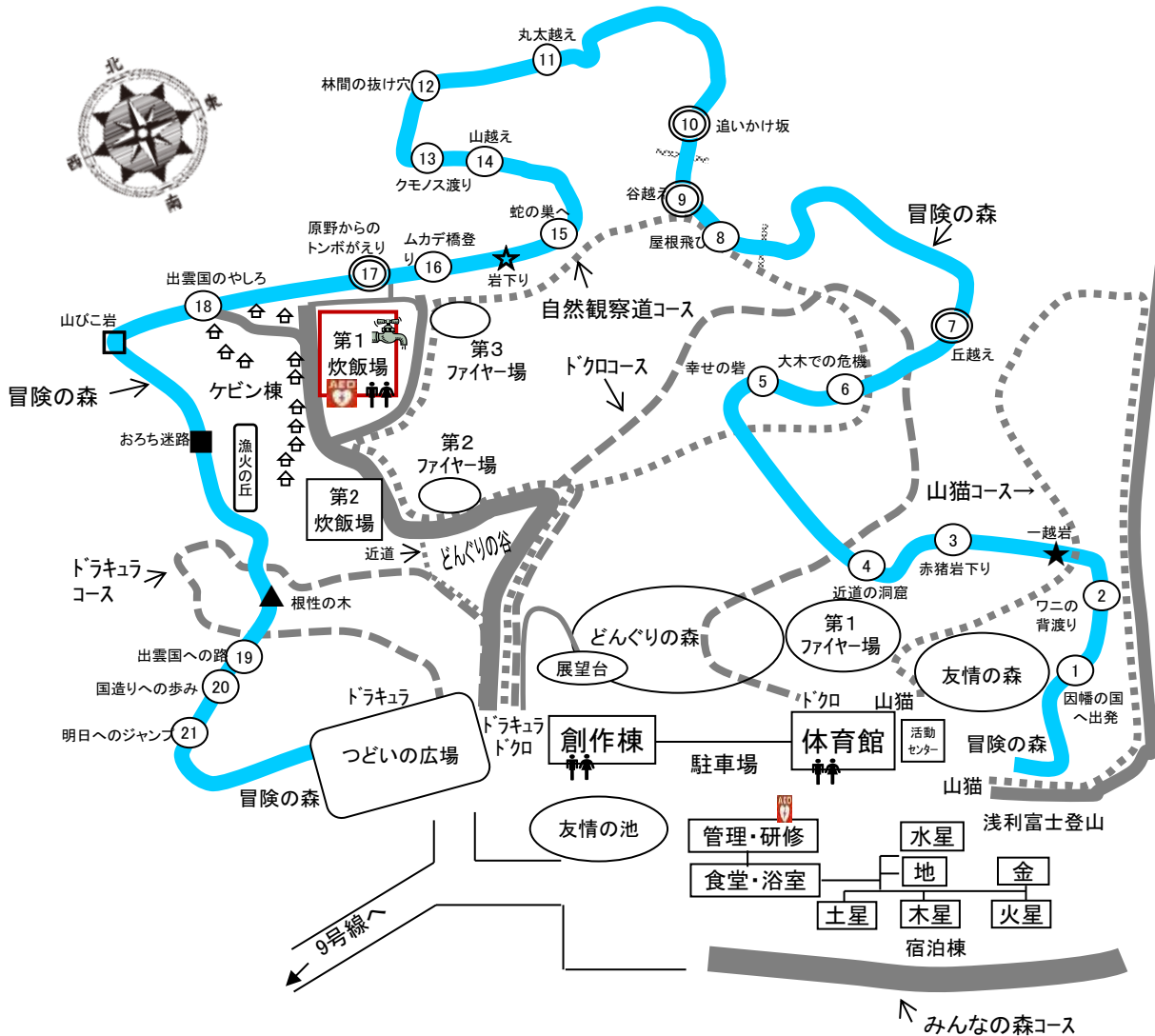
I 野外活動

- 1 冒険の森 (フルコース)
冒険の森 (①～⑧⑩コース)
冒険の森 (①～⑩コース)
- 2 やぐらづくり
- 3 スコアオリエンテーリング
- 4 イモームとかくれんぼ
- 5 浅利富士登山
- 6 どんぐりの谷遊び
- 7 自然遊び・散策
- 8 ナイトハイク
- 9 キャンプファイヤー
- 10 肝だめし
- 11 星空観察・天体学習



活動名						冒険の森（フルコース）											
概要		○冒険の森にあるアスレチックを順に挑戦し、コースを回る。															
ねらい		○お互いに声をかけ合ったり、励まし合ったりする中で、仲間意識を高める。 ○様々なアスレチックを乗り越える中で、気力、体力、判断力を養う。 ○森の中の動植物を観察しながら歩くことで自然とのふれあいを深める。															
関連教科等		体育・理科・道徳・総合															
指導形態		①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う				時期		通年		時間帯		日中		対象		低学年～	
場所		冒険の森コース		人数		～200人程度 （～10人程度／1グループ）		所要時間		2～3時間							
準備物						施設で準備できるもの						団体・個人で準備するもの					
トランシーバー 熊鈴 ヘルメット 冒険の森コース資料（指導者用）												野外活動に適した服装 （帽子、長袖シャツ、長ズボン）					
進め方・展開例																	
内容									留意点								
活動前		○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・物品の受け渡し（準備物参照）								○荒天時は相談の上、実施判断をする。 ○自主活動で実施の場合は、活動の進め方を確認する。							
活動の説明		○全長約2km ○動物の絵の標識をたどる。 ○トイレ休憩 → 第1炊飯場トイレ使用 ○危険な動植物について知る。								○事故が発生した場合には、近くにいる指導者に連絡がとれる体制をつくっておく。 ○グループ内で「協力」など実施上のねらいをおさえておく。 ○「ウサギ」「カメ」「タヌキ」「キツネ」「サル」の絵の標識をたどることを確認する。 ○ウルシ、ハゼ、マダニ、マムシ、スズメバチ、クマ等について注意するよう確認する。 ○活動は、落ち着いて行動し、前のグループを追い越すことのないように約束させる。 ○首からかけるようなもの（水筒等）は持たせない。 ○着用することで済むため、軍手は着用しない。							
展開		○グループごとに出発する。 ○グループで協力し合いながら進む。 ○1番～21番までのアスレチックを順に回る。 ○グループでまとまってゴールする。								○3～10分ごとにグループのみんなが一緒になって出発するようにさせる。 ○指導者配置が望ましい場所 ⑦丘越え ⑨谷越え ⑩追いかげ坂 ⑰原野からのトンボがえり ○④近道の洞窟は事前にマムシ等の確認をする。 ○研修中、トランシーバーを使い指導者同士の連絡をとる。また、事故発生時は、事務室へ連絡を入れる。 ○冒険心だけをあおらずに野外の自然にもしっかりふれさせたい。 ○原野からのトンボがえりは、実施中にロープをゆらさないようにさせる。							
まとめ		○グループまたは全体で、どんなところが楽しかったか、また難しかったかなどを発表する。 ○グループ内でどのようながんばりや発見、協力がみられたか発表する。															
評価		○互いに声を掛け、認め合い励まし合いながら活動できたか。 ○最後まであきらめずに挑戦することができたか。 ○木や草花などの自然に目を向けることができたか。															
発展		○コースを回る中でねらいに応じた活動を取り入れることも可能。（ネイチャーゲームなど）															

冒険の森案内図



緊急連絡先 少年自然の家
TEL 0855(52)0716

<説明事項一覧>

絵の標識をたどりながら進みます。

○冒険の森コース
(約2km・約2時間)



- 看板 ○追跡サイン
- 指導者配置場所 ⑦ ⑨ ⑩ ⑰
- 水分補給について
 - ・水筒持込不可・スタート時に補給してください。
 - ・第1炊飯場に冷水機があります。
- トイレは、第1炊飯場にあります。
- AEDは、第1炊飯場と事務室にあります。
- 服装について
 - ・原則は帽子・ヘルメット着用、長そで長ズボンが望ましいです。
 - ・リュック・水筒等の荷物は持って入らないでください。
 - ・軍手も滑りやすいので不要です。(※事故防止の為)
- 危険な動植物について
 - ・マムシ&スズメバチ …静かにその場を離れましょう。
 - ・マダニ …虫よけ対策をし草むらに入らないようにしましょう。
 - ・クマ …音をならしたり声を出したりして出会わないようにしましょう。みんなで一緒に行動しましょう。
 - ・ハゼノキ
 - ・ヤマウルシ
 - ・ツタウルシ



コース内のかぶれる樹木には黄色いテープがつけてあります。コースを外れると危険な植物があるのでコース外に入らないようにしてください。

- トランシーバーの通信が届きにくい場所もあります。途中で中継するなどして、本部との連絡を取ってください。



14 山越え
(オオクニヌシに逢いに)



12 林間への抜け穴



9 谷越え
(木の国)
[指導者配置が望ましい]



15 蛇の巣へ



13 クモの巣渡り



11 丸太越え (根の国へ)



10 追いかかけ坂
[指導者配置が望ましい]



岩くだり



16 ムカデ橋登り

自然とのふれあい 冒険の森コース



7 丘越え
(木の国へ脱出)
[指導者配置が望ましい]



8 尾根飛び (木の国へ)



第1
炊飯場

17 原野からのトンボがえり
[指導者配置が望ましい]



18 出雲国のやしほ



5 幸せの岩



6 大木での危機
※網の内側を伝って
下りましょう。



山びこ岩



おろち迷路

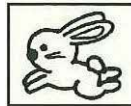


4 近道の洞窟
[マムシ等の事前確認]

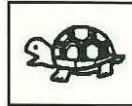


根性の木

◎追跡サイン



ウサギ



カメ



タヌキ



キツネ



サル



3 赤猪岩下り
※雨でぬれている時は、すべ
りますので、使えません。



一越岩



20 国造りへの歩み



19 出雲国への路



2 ワニの背渡り



1 因幡の国へ出発



ゴール (友情の丘)



21 明日へのジャンプ



スタート



あずまや

つどいの
広場

創作棟

体育館

活動
センター



案内板

【野外活動】

活動名						
冒険の森（①～⑧ ⑰コース）						
概要	○冒険の森にあるアスレチックを順に挑戦し、コースを回る。（幼児が行う時に向く）					
ねらい	○お互いに声をかけ合ったり、励まし合ったりする中で、仲間意識を高める。 ○様々なアスレチックを乗り越える中で、気力、体力、判断力を養う。 ○森の中の動植物を観察しながら歩くことで自然とのふれあいを深める。					
関連教科等	体育・理科・道徳・総合					
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う					
時期	通年	時間帯	日中		対象	幼児～
場所	冒険の森コース	人数	～200人程度 (～10人程度/1グループ)		所要時間	1～1.5時間
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの		
	トランシーバー 熊鈴 ヘルメット 冒険の森コース資料（指導者用）			野外活動に適した服装 (帽子, 長袖シャツ, 長ズボン)		
進め方・展開例						
内容				留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・物品の受け渡し（準備物参照）			○荒天時は相談の上、実施判断をする。 ○自主活動で実施の場合は、活動の進め方を確認する。		
活動の説明	○動物の絵の標識をたどる。 ○危険な動植物を知る。 ○トイレは第1炊飯場（ゴール地点）なので事前に済ませておく。			○事故が発生した場合には、近くにいる指導者に連絡がとれる体制をつくっておく。 ○グループ内で「協力」など実施上のねらいをおさえておく。 ○「ウサギ」「カメ」「タヌキ」「キツネ」「サル」の絵の標識をたどることを確認する。 ○ウルシ、ハゼ、マダニ、マムシ、スズメバチ、クマ等について注意するよう確認する。 ○活動は、落ち着いて行動し、前のグループを追い越すことのないように約束させる。 ○首からかけるようなもの（水筒等）は持たせない。 ○着用することですべるため、軍手は着用しない。		
展開	○グループごとに出発する。 ○グループで協力し合いながら進む。 ○グループでまとまってゴールする。			○3～10分ごとにグループのみんなが一緒になって出発するようにさせる。 ○近道の洞窟は事前にマムシ等の確認をする。 ○研修中、トランシーバーを使い指導者同士の連絡をとる。また、事故発生時は、事務室へ連絡を入れる。 ○冒険心だけをあおらずに野外の自然にもしっかりふれさせたい。 ○原野からのトンボがえりは、実施中にロープをゆらさないようにさせる。		
まとめ	○グループまたは全体で、どんなところが楽しかったか、また難しかったかなどを発表する。 ○グループ内でどのようながんばりや発見、協力がみられたか発表する。					
評価	○互いに声を掛け、認め合い励まし合いながら活動できたか。 ○最後まであきらめずに挑戦することができたか。 ○木や草花などの自然に目を向けることができたか。					
発展	○コースを回る中でねらいに応じた活動を取り入れることも可能。（ネイチャーゲームなど）					

冒険の森案内図(①～⑧⑪⑰コース)

【コースのご案内】
 『地図の**緑色マーカー**のコース』
 ①～⑧⇒(ショートカット)→⑰
 ※「⑨谷越え」のすぐ手前を、
 左に曲がって道なりに進んで
 「⑰原野からのトンボがえり」ま
 でショートカットするコースです。
 緑色マーカーのコースを道なり
 に進めば、短時間で戻ってこれ
 ます。

緊急連絡先 少年自然の家
 TEL 0855(52)0716

<説明事項一覧>

絵の標識を
 たどりなが
 ら進みます。

○冒険の森ショートコース
 ←※左記内容も要確認!(約1km・約1～1.5時間)

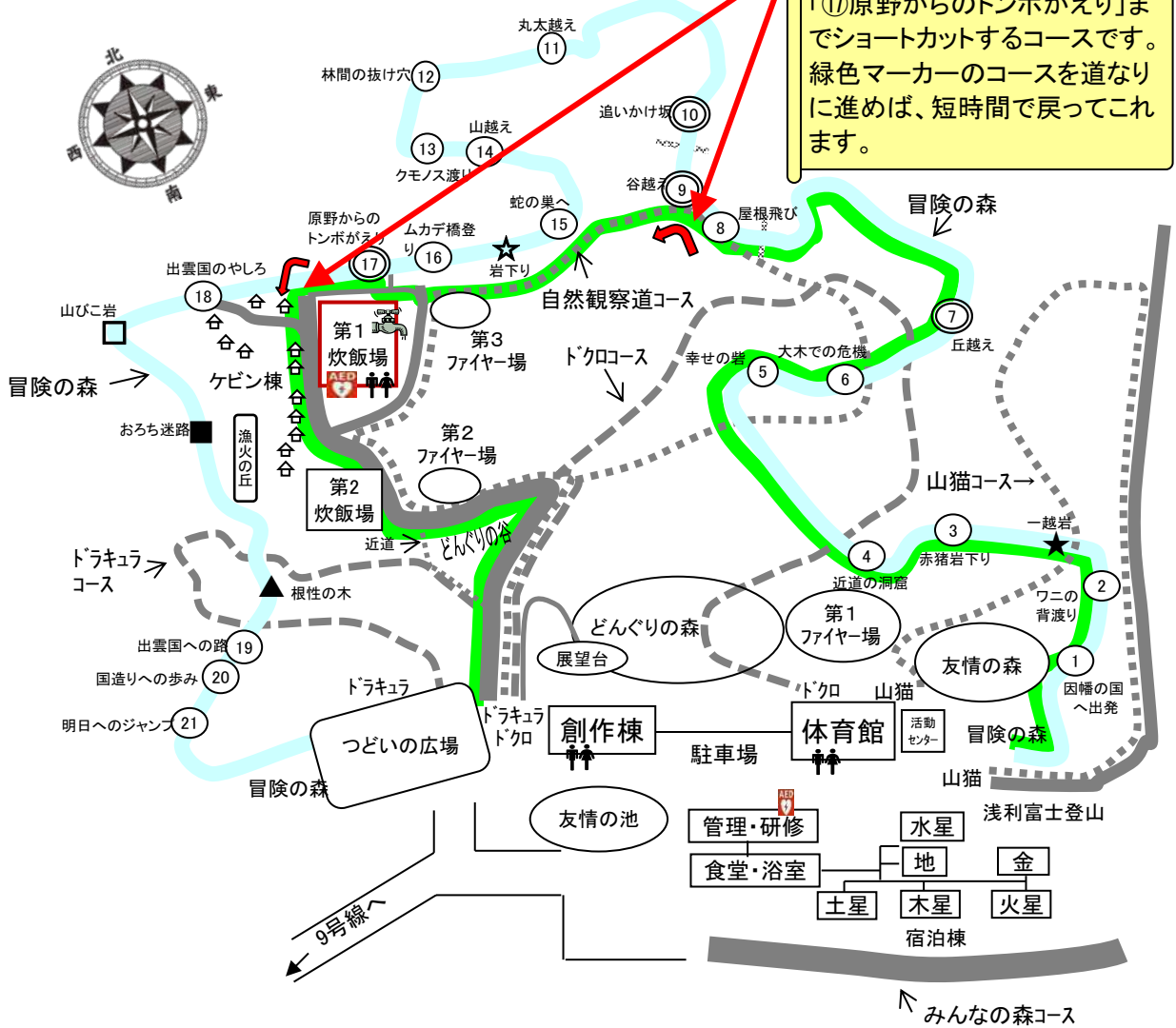


- 看板 ○追跡サイン
- 指導者配置場所 ⑦ ⑨ ⑰
- 水分補給について
 - ・水筒持込不可・スタート時に補給してください。
 - ・第1炊飯場に冷水機があります。
- トイレは、第1炊飯場にあります。
- AEDは、第1炊飯場と事務室にあります。
- 服装について
 - ・原則は帽子・ヘルメット着用、長そで長ズボンが望ましいです。
 - ・リュック・水筒等の荷物は持って入らないでください。
 - ・軍手も滑りやすいので不要です。(※事故防止の為)
- 危険な動植物について
 - ・マムシ&スズメバチ …静かにその場を離れましょう。
 - ・マダニ …虫よけ対策をし草むらに入らないようにしましょう。
 - ・クマ …音をならしたり声を出したりして出会わないようにしましょう。みんなで一緒に行動しましょう。
 - ・ハゼノキ
 - ・ヤマウルシ
 - ・ツタウルシ



コース内のかぶれる樹木には黄色いテープがつけてあります。
 コースを外れると危険な植物があるのでコース外に入らないようにしてください。

8. トランシーバーの通信が届きにくい場所もあります。
 途中で中継するなどして、本部との連絡を取ってください。





14 山越え
(オオクニヌシに逢いに)



12 林間への抜け穴



9 谷越え
(木の国)
[指導者配置が望ましい]



15 蛇の巣へ



13 クモの巣渡り



11 丸太越え (根の国へ)



10 追いかかけ坂
[指導者配置が望ましい]

⑨手前を左折



岩くだり



16 ムカデ橋登り



17 原野からのトンボがえり
[指導者配置が望ましい]



18 出雲国のやしほ

自然とのふれあい 冒険の森コース

第1
炊飯場

⑩ゴール地点を左折



山びこ岩



おろち迷路

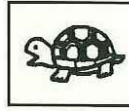


根性の木

◎追跡サイン



ウサギ



カメ



タヌキ



キツネ



サル



7 丘越え
(木の国へ脱出)
[指導者配置が望ましい]



8 尾根飛び (木の国へ)



5 幸せの岩



6 大木での危機
※網の内側を伝って
下りましょう。



3 赤猪岩下り
※雨でぬれている時は、すべ
りますので、使えません。



4 近道の洞窟
[マムシ等の事前確認]



2 ワニの背渡り



一越岩



1 因幡の国へ出発



20 国造りへの歩み



19 出雲国への路



ゴール (友情の丘)



21 明日へのジャンプ



あずまや

つどいの
広場

創作棟

体育館

活動
センター



スタート



案内板

活動名	冒険の森（①～⑱コース）			
概要	○冒険の森にあるアスレチックを順に挑戦し、コースを回る。（短時間に行きたい時に向く）			
ねらい	○お互いに声をかけ合ったり、励まし合ったりする中で、仲間意識を高める。 ○様々なアスレチックを乗り越える中で、気力、体力、判断力を養う。 ○森の中の動植物を観察しながら歩くことで自然とのふれあいを深める。			
関連教科等	体育・理科・道徳・総合			
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う			
時期	通年	時間帯	日中	
対象	低～		所要時間	1～2時間
場所	冒険の森コース	人数	～200人程度 (～10人程度/1グループ)	
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの	
	トランシーバー 熊鈴 ヘルメット 冒険の森コース資料（指導者用）		野外活動に適した服装 (帽子, 長袖シャツ, 長ズボン)	
進め方・展開例				
	内容		留意点	
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・物品の受け渡し（準備物参照）		○荒天時は相談の上、実施判断をする。 ○自主活動で実施の場合は、活動の進め方を確認する。	
活動の説明	○動物の絵の標識をたどる。 ○危険な動植物を知る。 ○トイレは第1炊飯場（ゴール地点）なので事前に済ませておく。		○事故が発生した場合には、近くにいる指導者に連絡がとれる体制をつくっておく。 ○グループ内で「協力」など実施上のねらいをおさえておく。 ○「ウサギ」「カメ」「タヌキ」「キツネ」「サル」の絵の標識をたどることを確認する。 ○ウルシ、ハゼ、マダニ、マムシ、スズメバチ、クマ等について注意するよう確認する。 ○活動は、落ち着いて行動し、前のグループを追い越すことのないように約束させる。 ○首からかけるようなもの（水筒等）は持たせない。 ○着用することですべるため、軍手は着用しない。	
展開	○グループごとに出発する。 ○グループで協力し合いながら進む。 ○グループでまとまってゴールする。		○3～10分ごとにグループのみんなが一緒になって出発するようにさせる。 ○近道の洞窟は事前にマムシ等の確認をする。 ○研修中、トランシーバーを使い指導者同士の連絡をとる。また、事故発生時は、事務室へ連絡を入れる。 ○冒険心だけをあおらずに野外の自然にもしっかりふれさせたい。 ○原野からのトンボがえりは、実施中にロープをゆらさないようにさせる。	
まとめ	○グループまたは全体で、どんなところが楽しかったか、また難しかったかなどを発表する。 ○グループ内でどのようながんばりや発見、協力がみられたか発表する。			
評価	○互いに声を掛け、認め合い励まし合いながら活動できたか。 ○最後まであきらめずに挑戦することができたか。 ○木や草花などの自然に目を向けることができたか。			
発展	○コースを回る中でねらいに応じた活動を取り入れることも可能。（ネイチャーゲームなど）			

冒険の森案内図(①～⑱コース)

【コースのご案内】

『地図の**橙色マーカー**のコース』
①→⑱まで挑戦します

※「①因幡の国へ出発」から
「⑱原野からのトンボがえり」まで挑戦して帰ってくるコースです。
橙色マーカーのコースを道なりに進めば、短時間で戻ってこれます。

緊急連絡先 少年自然の家
TEL 0855(52)0716

<説明事項一覧>

絵の標識を
たどりなが
ら進みます。

○冒険の森ショートコース
←※左記内容も要確認!(約1.5km・約1~2時間)



- 看板 ◎追跡サイン
- 指導者配置場所 ⑦ ⑨ ⑩ ⑱
- 水分補給について
 - ・水筒持込不可・スタート時に補給してください。
 - ・第1炊飯場に冷水機があります。
- トイレは、第1炊飯場にあります。
- AEDは、第1炊飯場と事務室にあります。
- 服装について
 - ・原則は帽子・ヘルメット着用、長そで長ズボンが望ましいです。
 - ・リュック・水筒等の荷物は持って入らないでください。
 - ・軍手も滑りやすいので不要です。(※事故防止の為)
- 危険な動植物について
 - ・マムシ&スズメバチ …静かにその場を離れましょう。
 - ・マダニ …虫よけ対策をし草むらに入らないようにしましょう。
 - ・クマ …音をなしたり声を出したりして出会わないようにしましょう。みんなで一緒に行動しましょう。
 - ・ハゼノキ
 - ・ヤマウルシ
 - ・ツタウルシ



コース内のかぶれる樹木には黄色いテープがつけてあります。
コースを外れると危険な植物があるのでコース外に入らないようにしてください。

- トランシーバーの通信が届きにくい場所もあります。
途中で中継するなどして、本部との連絡を取ってください。





14 山越え
(オオクニヌシに逢いに)



15 蛇の巣へ



岩くだり



17 原野からのトンボがえり
〔指導者配置が望ましい〕



山びこ岩



根性の木



20 国造りへの歩み



ゴール (友情の丘)



あずまや



12 林間への抜け穴



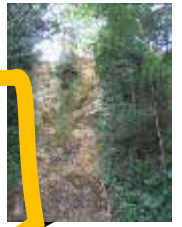
13 クモの巣渡り



11 丸太越え (根の国へ)



9 谷越え
(木の国)
〔指導者配置が望ましい〕



10 追いかけ坂
〔指導者配置が望ましい〕



7 丘越え
(木の国へ脱出)
〔指導者配置が望ましい〕



5 幸せの岩



8 尾根飛び (木の国へ)



6 大木での危機
※網の内側を伝って
下りましょう。



4 近道の洞窟
〔マムシ等の事前確認〕



3 赤猪岩下り
※雨でぬれている時は、すべ
りますので、使えません。



一越岩



2 ワニの背渡り



1 因幡の国へ出発



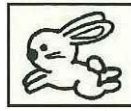
スタート



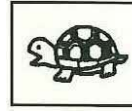
案内板

自然とのふれあい 冒険の森コース

◎追跡サイン



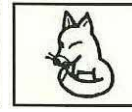
ウサギ



カメ



タヌキ



キツネ



サル



第1
炊飯場

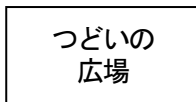
⑰ゴール地点を左折



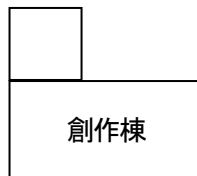
おろち迷路



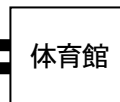
21 明日へのジャンプ



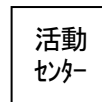
つどいの
広場



創作棟



体育館



活動
センター

活動名	やぐらづくり				【YouTube動画あり】	
概要	○丸太、板、ロープを使い、やぐらをつくる。					
ねらい	○グループ内で話し合いをしながら、作業分担を決め、協力して作業を進めることができる。 ○作業の見通しを立てることができる。 ○創造する喜びを感じることができる。					
関連教科等	図画工作・道徳・総合					
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う					
時期	通年	時間帯	日中		対象	高学年～
場所	友情の森 どんぐりの森	人数	8～180人程度 (8～15人程度/1グループ) 友情の森8基まで どんぐりの森10基まで (同時活動の場合は計12基まで)		所要時間	3時間～全日
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの		
	ヘルメット、丸太、板、ロープ、片付けシート			帽子、タオル		
進め方・展開例						
	内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・集合場所、活動開始時間の確認			○荒天時は相談の上、実施判断をする。		
活動の説明	○職員から説明を聴く。 ・やぐらのイメージをつかむ。 ・ロープの結び方（本結び）を練習する。 ・資材等の保管場所を確認する。 ・長くて重い丸太の運搬については、みんなで協力すること。 ・説明用の材料を持って活動場所に移動し、立木と丸太の結び方を理解する。 ・丸太やロープの太さと長さなどにより使い分けをすること。 ・片づけについての手順を理解する。			○ヘルメットを配り、必要性や安全面等に気づかせ、活動中も必ず着用させる。 ○見本をよく見て練習するよう促す。 <div style="text-align: center;">  <p>「本むすび」の手順</p> </div>		
展開	○やぐらを組み立てる場所を決める。 ○グループ別に役割分担や手順などを話し合う。 ○材料の運搬をする。 ○やぐらづくりに取りかかる。 ①土台となる丸太を組む。 ②床を張る土台を組む。 ③必要な床板の数を計算し、運搬する。 ④床になる板を組む。 ⑤その他。（はしご等の作製） ○進行具合を見ながら、同じ手順に従って、2階建てのやぐらに挑戦するのよ。よい。 ○片付け ・作った時の順番とは反対に解体していく。 ・丸太や床板は資材庫にもどす。 ・ロープは、10本ずつ束にしてかける。 ・ヘルメットを元の場所に返す。			○見通しをもたせることが大切である。 ○土台の取り付けは、安全上最も大切である。 ○無駄のないように概数を算出する方法に気づかせる。 ○ロープワークに触れる。 ○「片付けシート」を参考にする ○片づけが終了したら職員の点検を受ける。 (次の日でも可)		
まとめ	○グループごとに、やぐらのでき具合を見せ合う。 ○それぞれ班のできばえや感想を発表し合ったり、どんなところが難しかったか、どんなところを工夫したかなどを質問し合ったりする。					
評価	○話し合いにより分担を決め、協力して作業をすることができたか。 ○見通しを立てて作業することができたか。 ○創造する喜びを感じることができたか。					
発展	○やぐらにとどまらず、ブランコやターザンロープといった遊具などをつくってみるのよ。よい。 ○研修活動の基地として活用してもよ。よい。					

【野外活動】

活動名		スコアオリエンテーリング			
概要	○定められた時間内にグループ内で協力しながら、地図を頼りにエリア内のポストを探し出す。				
ねらい	○班の中で作戦を立て、協力しながらゲームを楽しむことができる。 ○方向、目印、距離をもとに地図の見方がわかるようになる。 ○自然の家のフィールドを広く動き回り、しっかり体を動かすことができる。				
関連教科等	算数・理科・社会・体育・道徳・総合				
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う				
時期	通年	時間帯	日中	対象	高学年～
場所	施設内全体	人数	～200人程度 (2～8人/1グループ)	所要時間	1.5～2.5時間 (事前説明含む)
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
	ゼッケン、地図付き解答用紙、腕時計、バインダー、筆記用具、トランシーバー、熊鈴		野外活動に適した服装 (帽子、長袖シャツ、長ズボン)		
進め方・展開例					
	内容			留意点	
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・流れの確認と物品の受け渡し(準備物参照)			○荒天時は相談の上、実施判断をする。 ○自主活動で実施の場合は、活動の進め方を確認する。	
活動の説明	○職員(または団体代表者)からの説明をきく。 ・オリエンテーリングの進め方 ・地図の見方 ・指導者の場所、トイレの場所の確認 ・時間、ペナルティーの確認 ・危険な動植物について			○得点だけを追い求めるのではなく、みんなの協力が大切なことを伝える。 ○ねらいに応じて自然・環境の大切さにも触れ、野山の歩き方(フィールドマナー)を考えさせたい。 ○班員が一緒に行動することを約束とする。	
展開	○作戦を立てる。 ○一斉に出発する。 (大人数の場合は時間差をつける)とよい) ○本部で到着の班をチェックする。 			○活動の時間は、出発してから1時間30分位が目安。 ○指導者間の連絡を密にし、研修者を把握し安全と事故防止に努める。(トランシーバー使用可) ○指導者の監視場所については、本部の他、15、24、32、37番ポストに配置する。 (15、24は必須) 【マップと解答用紙】	
まとめ	○得点をあげたことだけを取り上げずに、友達同士助け合ったことなどを発表し合う。				
評価	○班で作戦を立て、協力して活動できたか。 ○方向、目印、距離をもとにポストを探すことができたか。 ○草木や生き物を見ながら、自然に親しむことができたか。				
発展	○オリエンテーリングをしながら、植物を採集したり、動物の痕跡を見つけたりすることを取り入れながら展開することもできる。各団体のねらいに応じて工夫することが望まれる。				

【野外活動】

活動名		イモームとかくれんぼ				
概要	○時間内にグループ内で協力しながら、かくれているイモームを探し出してシートに数字や文字を記入する。					
ねらい	○班の中で作戦を立て、協力してゲームを楽しむことができる。 ○森の草木や生き物を見たり、自然を感じたりしながら歩くことができる。					
関連教科等	体育, 総合					
指導形態	①自主活動で実施, ②職員は活動の説明のみ行う					
時期	通年	時間帯	日中		対象	幼児～
場所	どんぐりの森 どんぐりの谷 友情の池	人数	～100 (2～8人/1グループ)		所要時間	1～2時間 (事前説明含む)
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの		
	イモーム(フィギュア), シート, 筆記用具, バインダー, トランシーバー			野外活動に適した服装 (帽子, 長袖シャツ, 長ズボン)		
進め方・展開例						
内容				留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・流れの確認と物品の受け渡し(準備物参照)			○荒天時は相談の上, 実施判断をする。 ○自主活動で実施の場合は, 活動の進め方を確認する。(団体の代表者でイモームのフィギュアをセッティングする。)		
活動の説明	○ルール説明 ○シートの記入の仕方の確認 ○時間, ペナルティーの確認			○森や草むらに入る場合は, かぶれる草木がある可能性があるので十分注意すること。 ○自然・環境の大切さに触れ, それと同時にフィールドマナーも考えさせたい。 ○班で行動する場合は班員でまとまって行動することを約束とする。		
展開	○一斉に出発させる。(大人数の場合は時間差をつける)とよい) ○本部で到着の班をチェックし人数確認をする。 ○答え合わせをして得点を計算する。			○活動時間は出発後, 1時間が目安となる。 ○指導者間の連絡を密にし(トランシーバー使用可)安全と事故防止に努めるようにする。		
						
まとめ	○シートをうめたことだけを取り上げるのではなく, 友達同士助け合ったことなどを発表し合う。					
評価	○班で協力して活動できたか。 ○方向, 目印をもとに取り組むことができたか。 ○草木や生き物を見ながら, 自然に親しむことができたか。					
発展	イモームを自然遊びや各OLのポイント配置に利用し, 内容に幅を持たせることができる。					

【野外活動】

活動名		浅利富士登山			
概要	○自然を楽しみながら室神山を登山する。 (標高：246m, 俗称：高仙・浅利富士)				
ねらい	○野山を歩くことによって、生き物や四季の自然の様子に気づくことができる。 ○自分のペースで登山をし、その達成感を味わうことができる。				
関連教科等	理科・社会・体育・道徳				
指導形態	①自主活動で実施				
時期	通年	時間帯	早朝～昼間	対象	幼児～
場所	浅利富士登山コース みんなの森コース	人数	～200人程度	所要時間	1～2.5時間 (休憩を含む)
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
	トランシーバー, 双眼鏡, 熊鈴, 地図		野外活動のできる服装, 帽子, タオル, 雨具, 水筒, リュックサック(手に物を持たせない配慮)など		
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・物品の受け渡し(準備物参照)			○荒天時は相談の上, 実施判断をする。 ○自主活動で実施の場合は, 活動の進め方を確認する。	
活動の説明	○登山について ○室神山, 自然について ○安全についての諸注意 (歩き方や危険な動植物について)			○事前の下見, 研修者の健康状態の確認。 ○ただ山に登るといふことにならないように, 各団体のねらいに応じた話をする。 ○全体行動をすることや, マダニ, ウルシ, ハゼ, マムシ, スズメバチ等について話をする。	
展開	○出発する。 ・コース(選択) ①浅利富士登山コース ②みんなの森コース ○展望台や山頂で休憩する。 ○下山する。 (展開例) ・野鳥の声を聞く。 ・森の様子を観察する。 ・ネイチャーゲームを行う。 ・ばあさん井戸の伝説の話を聞く。 ・岩場の展望台で景観を眺める。 ・浅利富士・高仙地藏の話を聞く。 ・風景のスケッチをする。			○トランシーバーを持つ指導者を先頭, 中間, 最後尾に配置し, 連絡を取りつつ登る。 ○コースは, 事前に調べておく。どのコースを選択するかは人数, ねらいによって決定する。 ○途中休憩を兼ねながら動植物や景色についても話をするとよい。 ○水道, トイレがないので, 事前対応が必要。 ○往路・復路でコースを変えることもできる。	
まとめ	○登山をして発見したことや驚いたこと, 感じたことなどを発表し合い, 分かち合う。				
評価	○生き物や自然の様子について気づくことができたか。 ○友達と協力し合って登山し, 達成感を味わうことができたか。				
発展	○創作活動と関連づけ, 材料集めを取り入れてもよい。 ○コースを選択して登山してもよい。 ○ナイトハイイクとして実施もできる。(夏は漁り火が美しい。)				

山頂からの眺め



「北」日本海・愛真高校




「西」日本海・自然の家





「東」浅利・黒松海岸




「南」島の星山・江の川

活動名		どんぐりの谷遊び			
概要	○どんぐりの谷をプレーパークとして、子どもたちが自ら遊びをつくる活動をする。				
ねらい	○フィールドや自然物を生かして自分たちで遊びを考える。 ○観察・採集・遊びを通して、自然物とふれあう。 ○既存の遊具などを用いて、思いきり体を動かす。				
関連教科等	生活・図画工作・体育・道徳				
指導形態	①自主活動で実施				
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼児～小学校低学年
場所	どんぐりの谷	人数	～50人程度	所要時間	1～3時間
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
	そり遊び用具、ネット、ヘルメット。 必要に応じて他の用具の準備も可能。		動きやすい服装、靴、ハンカチ、虫除け剤（マダニに効くもの）、必要に応じて子ども用スコップ、ままごと道具など、救急セット		
進め方・展開例					
	内容			留意点	
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認（子どもの自主的活動を基本） ・準備物の確認（どんぐりの谷に事前設置する遊具は、そり、ネット、の2種類、ヘルメット） ・安全上の留意点の確認 ・子ども10人に対して、見守り支援者1人が付くことが望ましい。			○雨天時は相談の上、実施判断をする。 ○できれば、現地でフィールドの範囲や遊具について確認する。 ○危険な動植物について注意を促す。（ウルシ、ハゼ、マムシ、スズメバチ、マダニ等） ○一般団体の場合、活動保険に入っていることが望ましい。	
活動の説明	○団体代表者からの説明を聞く。 ・自由遊びであること。 ・遊ぶフィールドの範囲。 ・安全上、気をつけることの確認。 ・ヘルメットをつけること。 ・活動時間の確認。			○子どもたちが説明内容を理解できているか確認する。 ○自由遊びに誘うため、制限事項は最小限に止める。	
展開	○フィールドの遊具、地形、自然物を生かして、自由に遊ぶ。 ○自分たちで遊びの内容や、ルールを考えながら遊ぶ。			○子どもたちの主体性を重視し、支援者は、見守りに徹する。 ○適度に声かけや評価をしながら、自由遊びが発展していくように誘う。 ○遊びを見つけれない子どもには、周囲の自然物の色、形、臭いなどに注目させる。 ○大きな怪我をしそうな遊びには、適切な声かけをしたり、止めたりする。	
まとめ	○遊んだ内容や感じたことなどを発表し合う。 ○日常と違うフィールドで発見したことを発表し合う。 ○支援者は、主体的に遊んだ姿を評価する。				
評価	○主体的に遊びづくりをすることができたか。 ○安全に気をつけて遊ぶことができたか。 ○フィールドの良さを感じる事ができたか。				
発展	○自分が考えた遊びの面白さを、身近な人に話す。 ○次来た時に、このフィールドでやってみたいことを考える。				

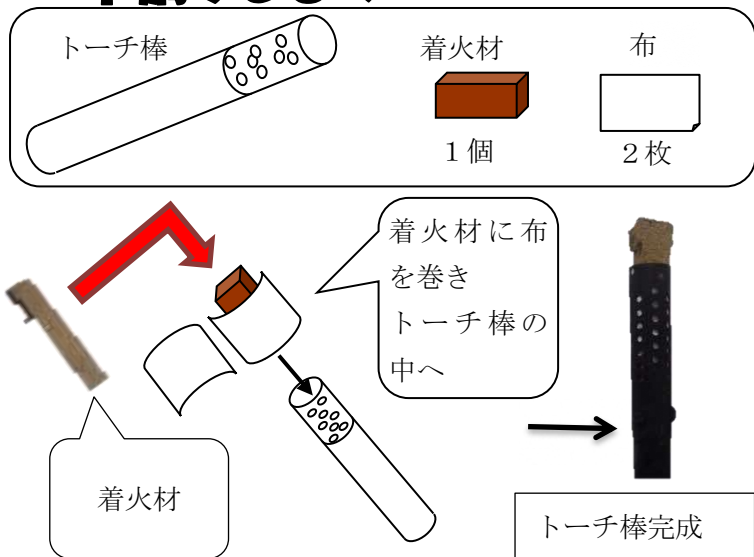
活動名		自然遊び・散策			
概要	○自然観察コースや自然の家周辺のフィールドで遊んだり、歩いたりしながら自然界のしくみや動植物の特徴について学ぶ。				
ねらい	○森の中を自由に歩くことを通して自然界の不思議さに目を向けることができる。 ○動植物の観察の仕方を知る。 ○動植物の生態や特徴を理解する。				
関連教科等	国語・理科・生活・図画工作 体育・音楽・道徳・総合				
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う				
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼児～
場所	施設周辺	人数	～40人程度	所要時間	0.5～3時間
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの	
	双眼鏡、ルーペ、フィールドスコープ 植物ハンド図鑑等			動きやすい服装	
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・流れの確認と物品の受け渡し（準備物参照）			○雨天時は相談の上、実施判断をする。 ○活動の進め方を確認する。	
活動の説明	○職員（または団体代表者）からの説明を聞く。			○コース（フィールド）と活動内容を確認する。 ○危険な動植物について注意を促す。 （ウルシ、ハゼ、マダニ、マムシ、スズメバチ等）	
展開	○目的に応じてコース（フィールド）を歩く。 ※活動の内容を明確にし、出発させる。 ○動物の足跡を調べる。 ○鳥の観察や鳴き声を聞く。 ○植物の観察をする。 ○植物を採取（スケッチ・写真撮影）する。 ○ネイチャーゲームで、五感を使った自然体験をする。			○コース（フィールド）の事前調査をしておく。※「自然観察道コース」「みんなの森コース」「冒険の森コース」「肝試しコース」「どんぐりの森コース」「どんぐりの谷コース」などを利用する。 ○イノシシ、タヌキ、ウサギなど。 ○鳥などをおどかさない。（大声など） ○色、形、臭い、味など。 ○スケッチ、写真での記録を原則とし、必要以上に採取しないようにする。 ○必要以上に植物や実を採取しない。	
まとめ	○調べたことや気づいたこと、発見したことなどを発表し合う。 ○自然と人との関わりについてもふれ、環境問題を考える契機とする。				
評価	○動植物の観察の仕方が理解できたか。 ○自然界の不思議さに目を向けることができたか。 ○動植物の生態や特徴を理解することができたか。				
発展	○自然の中でスケッチをしたり、感じたことを文章で表現したりしてもよい。 ○四季の変化と動植物の関係を観察するとよい。 ○自然の中をただ歩くだけでもよい。				

活動名		ナイトハイク			
概要	○普段なかなか見ることのできない夜の自然の世界を探検する。				
ねらい	○夜の野山を歩くことで、昼と違った自然の様子を見つけたり、感じたりすることができる。 ○闇の中で自然との一体化を体感する。 ○人の目は、闇の中でもある程度は順応できることを体験する。				
関連教科等	理科・総合				
指導形態	①自主活動で実施				
時期	通年	時間帯	夜	対象	低学年～
場所	浅利富士登山コース 等	人数	～100人程度	所要時間	1～2時間
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
	トランシーバー、ペンライト、熊鈴		野外活動のできる服装、懐中電灯		
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・物品の受け渡し（準備物参照）			○荒天時は相談の上、実施判断をする。	
活動の説明	○ナイトハイクの進め方 ○夜間の歩き方を含めた安全について			○ねらいを確認する。（※肝だめしとは違う） ○フィールドマナー（森の歩き方）を守って歩くようにする。森の動物にお邪魔するという気持ちを持つように指導する。 ○懐中電灯の光をいたずらに人に向けると闇に順応した目を元に戻すので、しないことを約束させる。	
展開	○出発する。 ◇コース（浅利富士登山コース） ○活動センター（ホールなど）に戻る。			○出発前に必ず人数確認をする。 ○最初と最後尾には指導者をつける。 ○途中休憩をとり、夜に活動する動物やコース途中から見える漁り火、星高山などの話をしてよい。 ○天候が良ければ星もきれいに見えるので、途中路上に仰向けに寝ころび、星空を観察するのもおもしろい。 ○途中でも人数確認をする。 ○フィールドマナーを守り、むやみに騒いだりしないようにさせたい。 ○人数確認を行う。	
まとめ	○夜の森の様子や夜道を歩いて感じたことを発表する。 ○夜の森では動物たちが活動していること、また、昼間のそれとは違うことなどについてもふれておきたい。				
評価	○夜（闇）の自然に興味や関心を持つことができたか。 ○昼と違った自然の様子を見つけたり、感じたりすることができたか。				
発展	○夜のネイチャーゲームを組み込んで行ってもよい。 ○シート・寝袋を持参し、途中30分程度寝ころんで星空の観察をしてもよい。運がよければ流れ星を見ることがもできる。鳥や動物の気配を感じながら寝るだけでもよい。				

活動名		キャンプファイヤー			
概要	○火を囲んで、ゲームや歌などをしながら温かい交流の場をつくる。				
ねらい	○仲間とともに過ごす喜びを味わい、友情を深める。 ○静かに自分をみつめ、自己を高めようとする心情を培う。 ○火の神秘さや火の大切さに気づかせる。				
関連教科等	音楽・体育・総合				
指導形態	①自主活動で実施,④外部講師による指導(有料)				
時期	通年	時間帯	夜	対象	幼児(大人同伴)～
場所	第1ファイヤー場(～200人) 第2ファイヤー場(～150人) 第3ファイヤー場(～100人)	人数	～200人程度	所要時間	1.5～2時間 (準備30分程度)
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
	放送用器具一式, テーブル 営火長衣装, トーチ, 薪, 灯油		スタンツ小道具, 軍手		
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・物品の受け渡し(準備物参照)			○荒天時は相談の上, 実施判断をする。 ○外部講師による指導の場合は打合せを行う。 ○活動の進め方, 片づけ方を確認する。	
活動の説明	○団体代表者からの説明をきく。 ・トーチを作成について(使用する場合) ※活動資料「トーチ棒, 火床の作り方, 準備と片付け」ページ参照 ・流れについて ・トーチの扱いについて (分火の仕方, 消し方と後処理)			○静と動のメリハリをつけさせる。 ○分火は火のついていないトーチを近づけるようにする。	
展開	※特に決められた形式はないので, それぞれの団体の実態を考慮して実施することが望ましい。ここでは一般的な3部形式の流れを紹介する。 ○事前準備(会場) ・火床準備(薪4～5束, 薪の隙間に新聞紙を詰める) ・トーチは, 開始30分くらい前に灯油に浸し油を切って1輪車に乗せておく。 ・灯油の残りは中央火床の新聞紙を中心にかける。			○事前に常設の消火用ホースを使って周辺に散水し, 飛び火を防止する。 ○必要な役割例。 ・火の神 ・営火長 ・火の守(営火長アシスタント) ・火の司(司会者) ・火の子(班編成による) ・ファイヤーキーパー	
	1部 [火をむかえる] 2部 [火をかこむ] 3部 [火をおくる] ※活動資料「キャンプファイヤー展開例」ページ参照 ○活動後 ・火床の火を消火する。燃えかすやトーチの後始末は, 翌日の朝行う。			○無言, 無灯, 静粛。(用真を持参) ○雰囲気を出しながら進行していく。 ○アシスタントは火の守。(BGM) ○静かで落ち着いた短い言葉で。 ○心を静めて3部へ導入する。 ○静かなBGMがあるとよい。 ○静かで落ち着いた短い言葉で。 ○営火長と握手しながら退場する。	
まとめ	○余韻を大切にしたい。 ○楽しかったことやよかったこと, 感想など自由に話し合う。				
評価	○仲間とともに楽しく活動し友情が深められたか。 ○自己を表現することができたか。				
発展	○火の神秘の力により心静かに自己を見つめるには最も適した活動である。仲間との友情をねらいとするには最もポピュラーであるが, 自己表現や自己を真剣に見つめ直すことに着目して実施することも有効である。				

トーチ棒の作り方

準備するもの



◎ トーチ小屋 ◎



火床の作り方

- ① 割り木を割り木置き場から、5束用意します。
- ② 割り木1束をそのまま火床に立て、新聞紙を丸めて下に敷き詰めます。



- ③ 割り木2束分をばらして火床に積んでいきます。
- ④ 残りの2束はキャンプファイヤーの途中で、火床に追加します。



☆ トーチ棒を持つときの注意点 ☆

- 火をつけていないときは、下向きに持ちます（灯油が垂れないように）
- 火をつけたら、斜め上に向けて持ちます（火傷しないように）
- トーチ棒を振り回してはいけません
- 歩いて退場するときは、前の人と間隔を十分にあげて、トーチ棒は正面ではなく、右側か左側に少しずらして持つようにします

準備と片付け

開始 30 分前には

- ① 消火栓のホース(白)と、水道ホース(青)を準備しておく。
- ② 灯油を缶の中に全部出し、トーチ棒を5分間つけてください。
- ③ 余った灯油は、火床にかけてください。

終了後は

- ① 火床に水道ホース(青)で水をかけてください。職員が立ち会いで消火の確認に伺うので事務室までお電話ください。
(TEL : 0855-52-0716)
- ② 消火したトーチ棒は猫車の上にとめて置いて下さい。

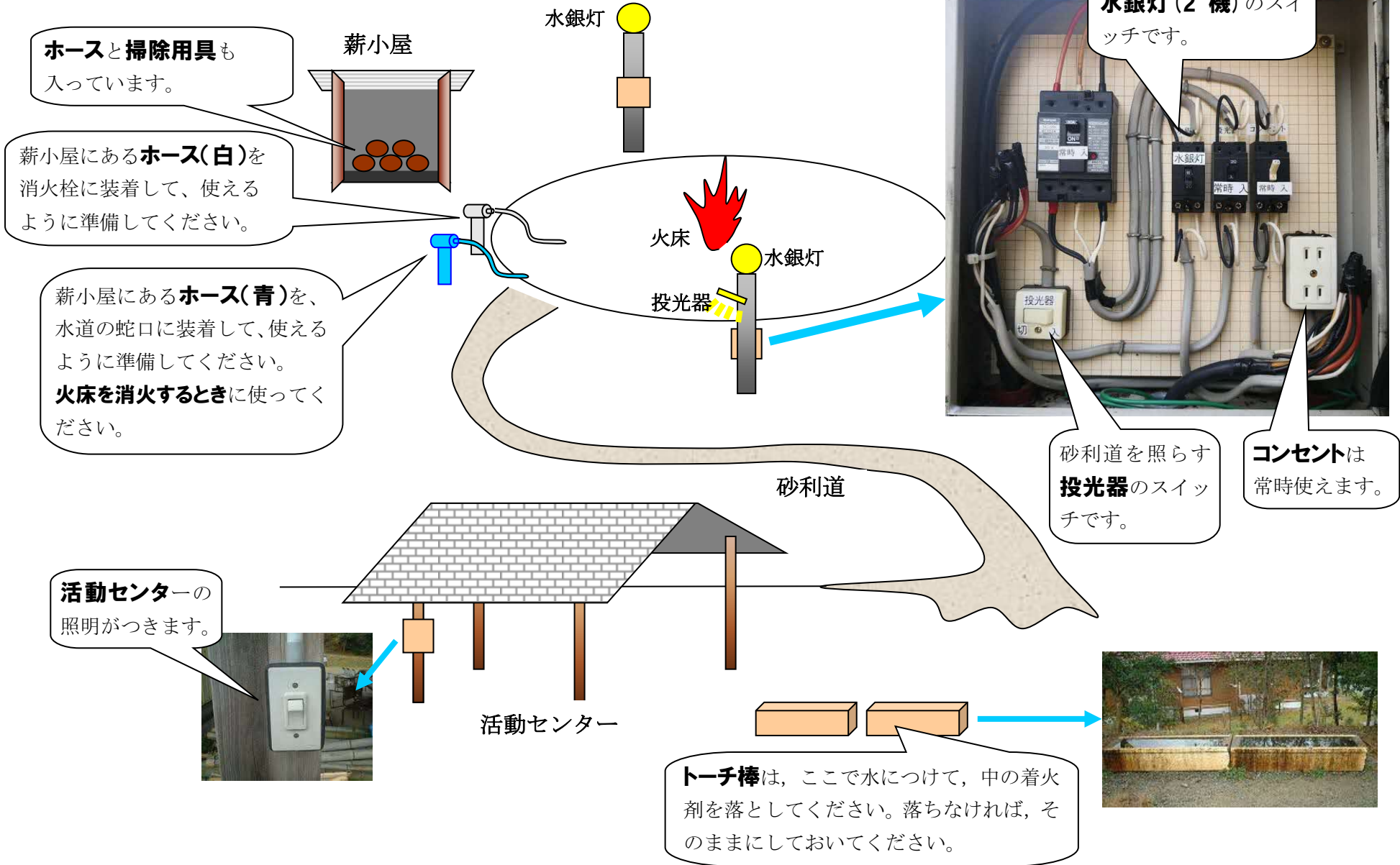
次の日に

- ① 火床の灰を灰捨て場に捨てて、火床をきれいにしてください。(掃除用具は割り木置き場にありますが)
- ② トーチ棒、灯油缶と瓶をトーチ棒置き場まで返してください。※トーチ棒に着火材が残っているときは金具で取り除いて下さい。

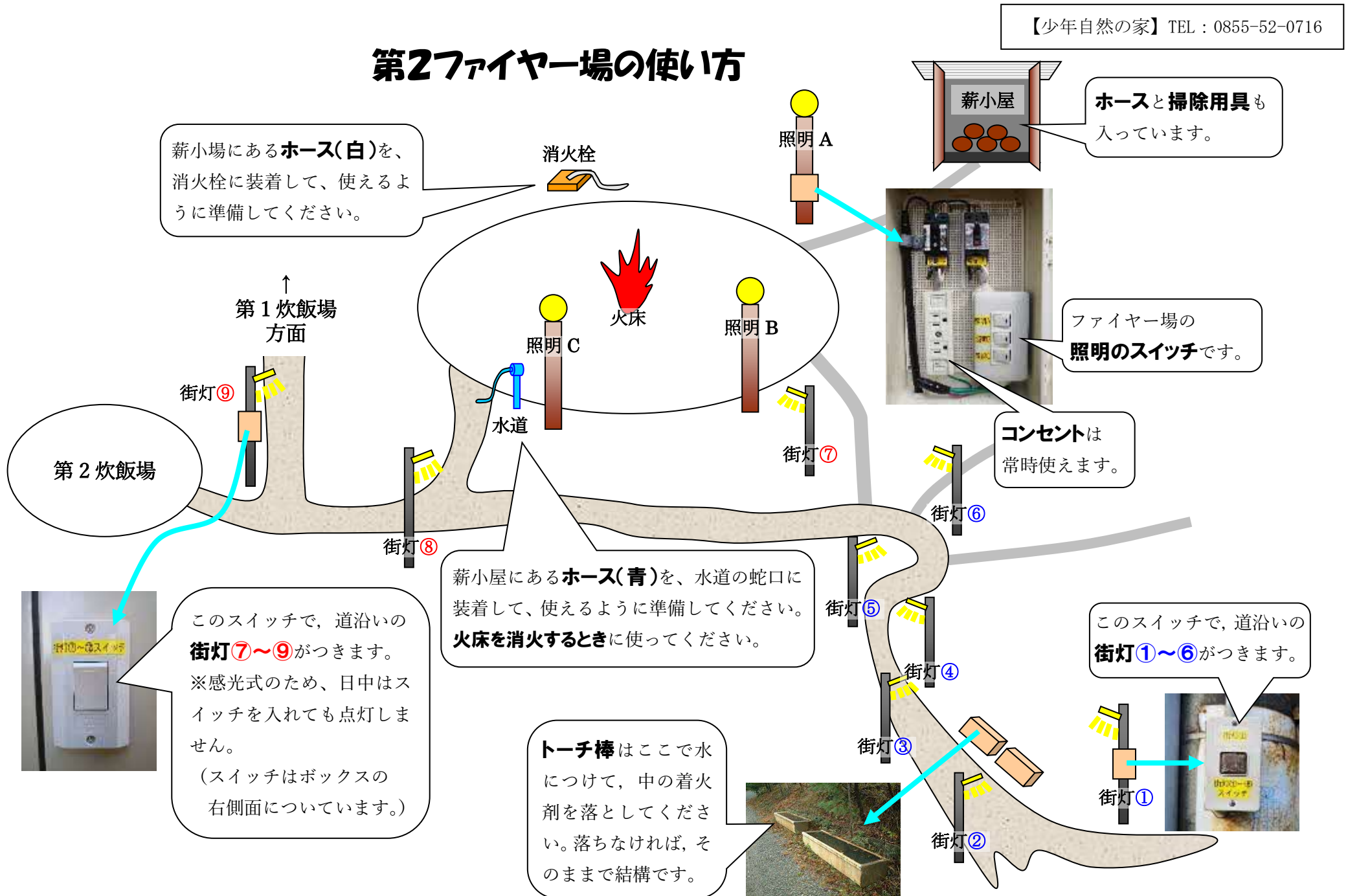
ファイヤー場略図



第1ファイヤー場の使い方

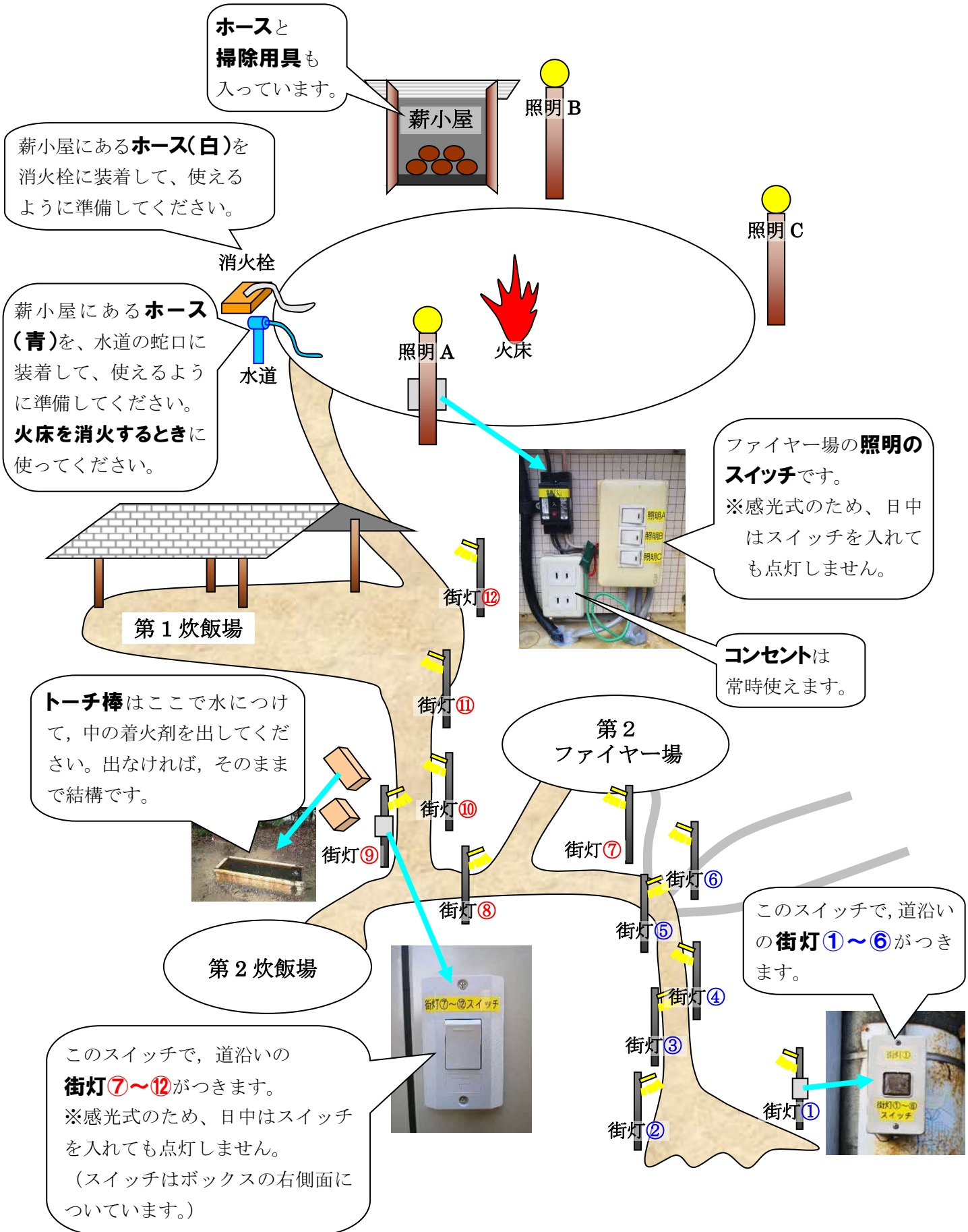


第2ファイヤー場の使い方



第3ファイヤー場の使い方

【少年自然の家】TEL : 0855-52-0716



<キャンプファイヤー展開例>

第1部 火をむかえる…聖なる火を持つ火の神を迎え、中央の火床に点火します。

【照明OFF】

- ① 集合 ———グループ別にファイヤー場とは別の場所へ。
(営火長・火の守は、先に入場し席について入場者を迎える。)
- ② 入場 ———無言・無灯・静粛。
- ③ 整列 ———立ったまま、中央の火床を囲む。【ここから始めてもよい。】
- ④ 開会のことば ———火の司(司会者)が、キャンプファイヤーの開会を宣言する。
- ⑤ 歌 ———「遠き山に日は落ちて」

(火の司)「この島根県立少年自然の家にも夜のとばりが降りてきました。しばらく雄大な自然の音に耳を傾けてみましょう。ただいまより、〇〇学校キャンプファイヤーを行います。それでは、今日一日のできごとを思い出しながら“遠き山に日は落ちて”を一番は歌で、二番はハミングで歌いましょう。」

- ⑥ 火の神入場 ———ランプを持って、円内をゆっくりと一周し、営火長の横につく。
- ⑦ 採火 ———火の守(営火長アシスタント)がランプから採火し、営火長のトーチに点火する。
- ⑧ 営火長のことば——静かで落ちついた短い言葉。

(火の司)「営火長よりはじめの言葉をいただきます。」

(営火長)「火は、遠い昔から、私達に、生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は、私達の生命でもあります。火を大切にすることは、自分を守ることにもなるのです。しかし、この偉大な火も、使う人の心により、人類を闘争と破壊へと導くことにもなります。火を大切に使う心を忘れてはいけません。今、ここに燃える火は、ここに集う私達に、大きな勇気と自信を与えてくれるものと信じます。」

- ⑨ 点火 ———営火長が中央の火床に火を入れる。

(火の司)「営火長が火床に火を点火します。」

- ⑩ 歌 ———「燃えろよ、燃えろ」「若者達」「手のひらを太陽に」「校歌」等

(火の司)「さあ、みなさん、今あかあかと火がともりました。この火が燃え上がり、天までこがすように“燃えろよ、燃えろ”を三番まで元気よく歌いましょう。」

- ⑪ 第1部終了

第2部 火をかこむ…グループや班で楽しいゲームや出し物を行い、友情を深めます。

【照明ON】

ゲーム・出し物 ——全体でのレクリエーションやグループごとのスタンプ発表。

(火の司)「さあ、燃え上がった火を囲んで、楽しいひとときを過ごしましょう。」

- ※ 2部は1時間程度でまとめる。
- ※ 2部の終わりごろには、火床の火を小さくする。
- ※ 2部終了後に全員にトーチを配る。

第3部 火をおくる…今夜自分たちを照らし続けてくれた炎に感謝し、仲間との友情を深めます。

【照明OFF】

① **歌** ——トーチをもって全員起立する。静かに心をしずめて3部に導入する。

「ふるさと」「旅の歌」「四季の歌」「たなばた」等

(火の司)「あれほど勢いよく燃えていた火も、いつの間にか小さくなりました。楽しかったこのファイヤーを胸におさめ、家族や友達、そして、みなさんを支えてくれているいろいろな人のことを思い出しながら”ふるさと”を1番は歌で、2番はハミングでうたいましょう。」

② **営火長点火** ——中央の火床から、トーチに火をつける。

(火の司)「中心で燃えている炎が、営火長に戻ります。」

③ **誓いのことば** ——火の子は、営火長の前に整列。営火長から営火をもらい、誓いのことばを述べる。

(火の司)「火の子は、トーチを持って営火長の前に整列してください。」

(火の司)「それでは営火長から火の守へ分火してもらいます。」

(営火長)「あなたには友情の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、この炎のように美しい心もち、変わらぬ友情を育てることを誓います。」

(営火長)「あなたには努力の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、この火に絶えず努力することを誓います。」

(営火長)「あなたには規律の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、きまりを守り、自分のことは自分であることを誓います。」

(営火長)「あなたには協力の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、みんなで力を合わせ、立派な子になることを誓います。」

(営火長)「あなたには希望の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、いつも明日を信じて進むことを誓います。」

(営火長)「あなたには奉仕の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、みんなで力を合わせ、みんなのために奉仕することを誓います。」

(営火長)「あなたには健康の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、健康に気をつけ、粘り強く体を鍛えることを誓います。」

etc

④ 分 火 ——各火の子は、班員に分火する。

(火の司)「それでは、火の子は各班のみなさんに分火してください。」

⑤ 営火長のことば——静かで落ち着いた言葉で。

(火の司)「このキャンプファイヤーも終わりを告げようとしています。火を送るにあたって、営火長から終わりのことばをいただきます。」

(営火長)「楽しかったこのつどいも終わりに近づいたようです。今宵の私たちのつどいを照らし続けてくれた意義ある火を、永遠の火といたしましょう。そして、みなさん、これからも、お互いに、協力しあい、励ましあい、がんばっていきましょう。」

⑥ 閉会のことば ——火の司が述べる。

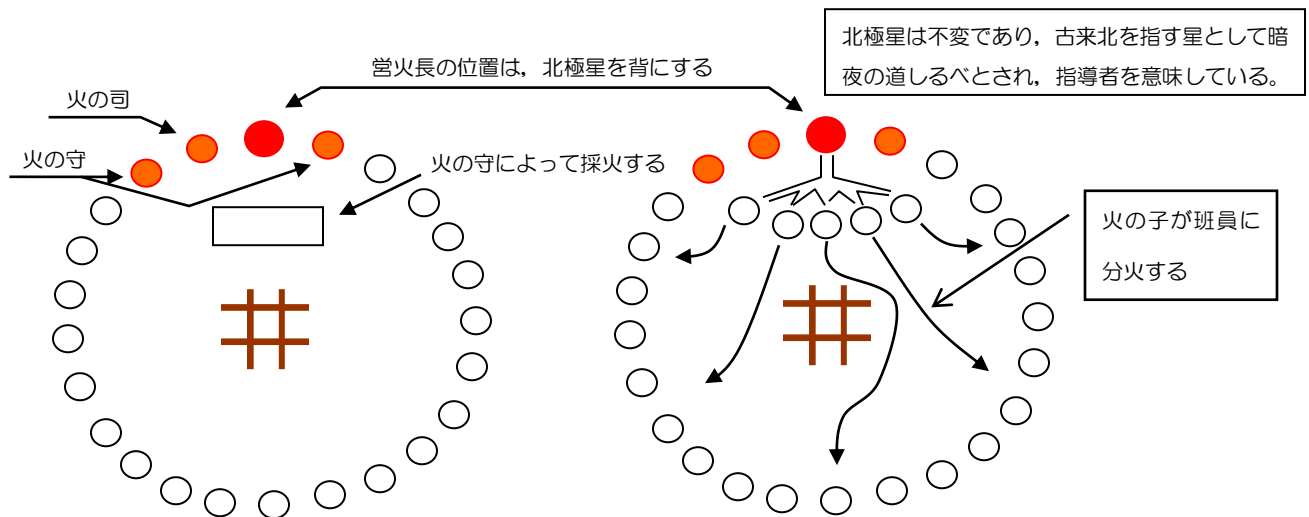
⑦ 歌 ——火の司の言葉が終る前より前奏に入る。

「今日の日はさようなら」

(火の司)「楽しいつどいの間、私たちを見守ってくれた炎も、今は、静かに消えてゆこうとしています。私達は、この宿泊生活を通して、とても素晴らしい経験を得ました。それらは、楽しく、また厳しく、生涯忘れることのできない思い出の一つとなることでしょうか。この感激を胸に、明日から、また、新しい気持ちでがんばりましょう。今日のこのつどいを、小さくなった火とともに閉じたいと思います。」

(火の司)「これで、〇〇学校キャンプファイヤーを終わります。」

⑧ 退 場 ——歌の一番終了後、退場する。



※ 実施上の留意点

- ① 展開には定形はないので、各グループの創意を生かして実施する。
- ② 退場の経路、トーチの消し方（使用する場合に限る）等も指導しておくこと。

キャンプファイヤーを行うにあたってのオリエンテーション

(※あくまでも一つの例です。)

キャンプのメインイベントともいえるキャンプファイヤー。キャンプのすべてを持ち寄って共に囲む理想の火です。あなたはこのキャンプで、心が燃えましたか。このファイヤーで心を燃やしきり、「私のファイヤー」にしてください。ファイヤーの主役はあなたです。ファイヤーが楽しくなるのも、ならないのもあなた次第なのです。私たちは、そのお手伝いしかできないのです。

キャンプファイヤーは、1部・2部・3部からできています。

第1部では、燃え上がった炎をただ一つの理想として祈る儀式の時間です。したがって、入場のときから無言で、厳かに、心を「気をつけ」しなければなりません。炎を理想とするために、特別な儀式をします。心静かに祈ってください。笑ったり、声を出したりしてはいけません。歌を歌うときは、あなたの理想に届くように大きな声で歌ってください。

第2部では、明るく楽しいときをみんなの手でつくり上げます。いよいよあなたの出番です。嫌なことや辛いこと、すべてを忘れて、思いっきり歌い、踊り、楽しんでください。仲間との友情を深めてください。そのためには、心の殻を打ち破り、おなかの底から声を出し、思いっきり動き回り、時には、はしゃぎまわることも大切です。

スタンプの時は、しっかり観て、しっかり拍手してください。あなたの応援が、すばらしいスタンプを引き出します。演じるときは、大きな声で、堂々と。

第3部は、明日へ向かう火です。“ただ楽しかった”だけでは、本当の喜びは得られません。何かを手にしてください。自らを焦がして光と熱を与え、何の代償も求めないで大地に還っていく火を見つめながら、自分の生活を振り返ってみてください。共に楽しんだ仲間のすばらしさをかみしめてください。ここも第1部と同じように心静かに行き、おしゃべりはしないでください。お話しの中で、呼びかけや問いかけがあっても、心の中だけで答え、声には出さないでください。

ことば集

(1) 点火のことば

静かな夜のとばりに包まれ、神々の祝福に見守られながら、私たちは今、キャンプ生活最後の、そして最高の喜びをもたらす火を迎えました。苦しかった火おこし、煙に泣いた炊飯、楽しかった野外活動。その中からいくつかの貴重な生活技術を体得し、新しい知識や考え方を学び、すばらしい友達をつくり、また、私自身のかくれた一面をも見つけ出したような気がします。

このキャンプでの多くの収穫は、必ず今後に生かさなければならぬと強く感じました。

豊かな思い出をいっそう感銘深く胸の奥に刻み込むためのキャンプファイヤーにみんなの情熱を結集しましょう。

(2) 営火長のことば

みなさん！みなさんとともに今宵このキャンプファイヤーを囲むことができる幸せに、まず感謝を捧げましょう。

そして、静かに、この火を見つめましょう。

みなさんたちは、この火の中に何をみますか。

この火は、人間の「かしこさ」をあらわします。火はあつかい方によっては、たいへん危険なものです。私たち人類は、「かしこさ」によって火をコントロールし、生活に生かすことができるようになりました。いつまでも創意工夫し、「かしこさ」をもち続ける人間になりましょう。

次に、この火は「情熱」をあらわします。すなわち、エネルギーそのものです。私たちの心と体を誰彼のへだてなくあたためてくれます。いつまでも燃えつきることのない情熱と温かい豊かな心をもち続ける人間に、そして、勇気ある人に成長してください。

さらに、この火は「団結」を意味します。営火のやぐらを見ましょう。1本、1本の木では火は燃えません。それぞれの丸太や小枝が助け合って大きな火となります。個人、個人の役割とその協力、共同、奉仕のあり方を学びとってください。

それでは、私たちの人間関係をこの火のもとにいっそう固く結びつけるためのキャンプファイヤーをはじめましょう。

(注) 営火長のことばは、キャンプの精神、営火の意義、友情・団結・奉仕・勇気など、また小学生などでは火にちなんだ話などキャンパーに感銘を与えるような内容と話し方が必要。あまり長くならず、5分以内くらいにとどめる。

【その他火の話】

① 幼児向け

今、木が燃えはじめました。この太い木も、はじめはたった一粒の種でした。暖かくて明るい太陽の光を受けて芽を出し、小さな木になりました。小さな木は、1年、2年、5年、10年と毎日太陽の光を受けて、大地から栄養をもらい、雨で水をもらいたくさんの枝を伸ばし、大きな木になったのです。

ここで燃えているのは、長い間ためてきた自然のエネルギーなのです。じっとこの炎を見つめましょう。この炎は自然からの贈り物です。楽しいキャンプファイヤーができるように、明るく、暖かくしてくれているのです。

② 小学生向け1

燃え上がる火を見よう。生きている赤い火、暖かい火、生の火です。この火が人間と獣を分かち、私たちの文化を築く源となりました。昔の人は火を大切にしました。料理をしたり、灯火としたり、生活に欠くことのできないものだったからです。一方、火は恐ろしいものでもあります。取り扱いを間違えると、またたくまに野原や森や林を焼き尽くしてしまいます。ですから、私たちはこの火を大切に正しく使わなければなりません。

この火をしっかりと見つめてください。自らを燃やし、私たちに光と熱を与えてくれるその姿は、思いやりの姿を教えてください。さあ、今夜はこの明るい火に負けないように、大声で歌い、笑い、踊り、心を開いてすばらしい思い出を作りましょう。

③ 小学生向け2

今、こうして燃えている火は、数分前まで何も見えなかったこのつどいに明るさを与えてくれ、一人一人の顔を見せてくれています。火は遠い昔から私たち人間に、生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は自らを焼き尽くしながら、光と熱を与えてくれます。火は私たちの命ともいえるものです。この燃え上がる火を見ていると、体が暖まるだけでなく、心まで暖かくなってきます。今日は、そんな火の暖かさにドップリつかって楽しいキャンプファイヤーにしましょう。

④ 中学生以上向け1

今、女神が運んでくれた炎が点火されました。この炎をじっと見つめてください。私たちに、協力、団結、理想、愛を語りかけてくれます。

協力。薪が1本だったら、小さな火にしかなりません。それが何本も集まり、お互いがお互いを燃やし合い、協力して大きな炎になっているのです。

団結。このファイヤーの井桁は、それぞれの薪が崩れる事なくしっかりと支え合っています。そして、空気が通りやすく薪が燃えやすいように組み合わせられているのでよく燃えるのです。

理想。たった一つの火です。高く神々しく燃える火は、暗闇の中で私たちを照らし、私たちに行く

先を導いてくれます。少しでも、理想に近づきたいものです。

最後は愛です。火は自らを燃やしながらか明らさと暖かさを与えてくれます。火が燃えれば燃えるだけ、みんなを輝かせます。この暖かさと優しさは、自然を愛し、人の命を愛することに通じます。この炎を囲んで、楽しいつどいを過ごしましょう。

⑤ 中学生以上向け2

“一期一会”という言葉があります。今の出会い、今このときはもう二度と還って来ないという意味ですが、まさに、今燃え上がっている炎とここに集った皆さんとの今の出会いはもう二度ともつことはできません。過ぎ去った一瞬を取り戻すことは決してできません。今燃えて、私たちに光と熱を与えてくれている薪は、その二度とない命をかけています。輝く一瞬一瞬を積み重ねることで、光り続けることができるのです。今日はあの薪のように、悔いのない時にしたいと思います。今夜は心のかみしめを脱いで、命を燃やして、明日につながる価値あるときを、あなたの歌声と、手拍子と、祈りを束ねて作り上げようではありませんか。

(3) 誓いのことば

① 友情

私たちは、この炎のように美しい心を持ち、変わらぬ友情を育てることを誓います。

② 努力

私たちは、この火に絶えず努力することを誓います。

③ 規律

私たちは、きまりを守り、自分のことは自分であることを誓います。

④ 協力

私たちは、みんなで力を合わせ、立派な子になることを誓います。

⑤ 希望

私たちは、いつも明日を信じて進むことを誓います。

⑥ 奉仕

私たちは、みんなで力を合わせ、みんなのために奉仕することを誓います。

⑦ 健康

私たちは、健康に気をつけ、粘り強く体を鍛えることを誓います。

(4) 分火の言葉

今、みんなで共に作り上げたファイヤーが終わろうとしています。楽しかったこと、仲間と協力したこと、このキャンプで学んだことをみんなで分け合いたいと思います。心の中に“火”を灯し、あなたの町、あなたの家、あなたの学校に持ち帰り灯し続けてください。さあ、新しい希望に向かってたくましく歩み出してください。

(5) 結びのことば

① 学校向け1

キャンプファイヤーを終えようとする今、天の神々に、大いなる自然に、そして共に助け合ったみなさんたちと厳しい中にも親切にご指導いただいた先生方に、もう一度、深い感謝を捧げます。

さらに、火というものが、これほどすばらしいものであることも初めて経験した楽しいキャンプファイヤーでした。

私たちは、今、一つの決心をしました。これまでの日常生活を深く反省し、新しい目標をそれぞれの胸の中に立て、この火の光りに助けられながら、それを大切に育てていくことを……。ありがとうございました。みなさんも一緒に……。ありがとうございました。

② 学校向け2

すばらしいファイヤーでした。みんなが力を合わせて頑張ったからすばらしいファイヤーになりました。

あんなに赤々と燃えていた炎も、今は静かに大地に還ろうとしています。でも、みんなの心の中には、赤々と燃え続ける炎が見えると思います。目を閉じると、一生懸命燃えているファイヤーと、その周りで楽しそうにしているみんなの顔が見えます。このすばらしい体験を一生持ち続けてください。このキャンプで学んだ協力の大切さや仲間のすばらしさを、これからの生活の中に持ち帰ってください。

③ 一般向け

いよいよこのファイヤーも終わりに近づきました。煙に涙しながら作ったご飯、道に迷いながらのオリエンテーリング、消灯後も尽きることのなかった話し合い。すばらしい体験と友達を得たことと思います。このキャンプでの出会いをいつまでも大事にしてください。お互いの友情と信頼の火を灯し続けてください。

みんなで囲んだ火。あんなに燃え盛り、大きく明るかった火も、今はこんなにも小さくなってしまいました。やがてこの火は消えてしまいますが、皆さんの心の中の火は消えることがないでしょう。心の中の火が次々に広がり、仲間の和に、未来を照らす火になることを祈りましょう。

一週間後の今日、私たちはどんな過ごし方をしているのでしょうか。普段は、文明生活に慣れ切っている私たちです。でも、ここに集まって本当にすばらしいキャンプをもつことができました。この地球という自然の中で生きることが確かめられました。

私たちは、自然から何を感じ、火から何を学び、仲間から何を知ったのでしょうか。そして、仲間に何を贈ることができたのでしょうか。火はやがて消えていきますが、私たちの心の中に燃え上がる“火”を大切に、いつまでも燃やし続けたいものです。

(6) キャンプファイヤーの火について…4つの教え

① 火は、光を放つ。

火は、世の中を明るくする光であり、道しるべである。

社会の担い手の一人ひとりとして、世の中の光となり、社会を明るくする役割のあることを教える。それは、人間として、無意味な人生を送るのではなく、目標をもち、人生の道しるべとなる意義ある生き方を教える。

② 火は、熱を与える。

火は、人びとを抱く暖かい熱を与える。

熱は冷えきった身体に、暖かい血をよみがえらせ、心に通わせる。それは、わがまを捨てて他を省み、人を愛する暖かい心をもつことの尊さを教える。

③ 火は、力を示す。


火は、全てのみにくいものを焼き尽くす力である。

赤々と燃える火も、一本一本の薪が、お互いに組み合わせられてこそ、小さな炎から大きな明るい熱をもった力強い炎となる。それは、人と人との協力と協調の中にこそある力強い生き方を教える、また、人間の勇気と清らかさを教える。

④ 火は、自らを焼き尽して、光と熱を与える。

火は、自らを焼き尽して働くところに、謙譲とかくれた善の行ない、犠牲と献身の尊さを教える。それはまた、奉仕の精神にもつながる。

【野外活動】

活動名						肝だめし【室内での実施も可能】					
概要		○暗闇を利用して、肝だめしをする。									
ねらい		○勇気を出して夜の道を歩くことができるようにする。 ○みんなで励まし合いながら活動することでお互いの信頼感を深める。									
関連教科等		道徳									
指導形態		①自主活動で実施									
時期		通年		時間帯		夜（日没後）		対象		低学年～	
場所		肝だめしコース (ドクロ、山猫、ドラキュラ)		人数		～200人程度 (～10人程度/1グループ)		所要時間		0.5～1.5時間	
準備物		施設で準備できるもの				団体・個人で準備するもの					
		肝だめし用小物一式、トランシーバー 効果音CD、CDラジカセ、ペンライト				なし					
進め方・展開例											
内容						留意点					
活動前		○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・物品の受け渡し（準備物参照）				○荒天時は相談の上、実施判断をする。また、コースの状況も考慮する。 ○活動の進め方、片づけ方を確認する。					
活動の説明		○【野外の場合】 ・ドクロコース（約800m） ※集合場所；活動センター、体育館 ・山猫コース（約700m） ※集合場所；活動センター、体育館 ・ドラキュラコース（約600m） ※集合場所；創作棟裏、つどいの広場、第2ホール				○指導者は明るいうちにコースを下見しておく。 ○何かがあったときの対応。 ○団体におけるルール。 ○ゴールした後の予定を知らせておく。					
展開		○雰囲気の出る話をきく。 ※活動資料「肝だめし用物語」ページ参照 ○グループ毎に出発する。 ○ゴール ○活動後、身につけた小物については、アルコール消毒をして返却する。				○対象者の実態を十分考慮する。 ○間隔をみながら出発させるようにする。 ○トランシーバーを使う際はボリュームを絞っておくと雰囲気を崩さない。 ○驚いた研修者の安全を守る。 ○ゴールした後、ホッとした気持ちからケガが発生することがある。最後の地点では指導者をつけ、研修者の健康状態や人数を確認しておく。					
まとめ		○何が怖かったか、そのときの友達の励ましの言葉や友達のありがたさなど感じたことを発表し合う。 ○終了の時間がまちまちなのでまとめの時間を取ることが難しい。感じたことを書くことでまとめとしてもよい。									
評価		○勇気を出して夜道を歩くことができたか。 ○お互いに励まし合いながら活動することができたか。									
発展		○浅利富士登山コースを使い往路は夜の自然を観察し、復路を使い肝だめしを行うというように複合させることもできる。									

肝だめし用物語

◎はじめに

肝だめし出発時に、雰囲気盛り上げるための話として、自然の家にまつわるものを参考までに紹介します。出発前に怖い話をするか否か、また、どんな話をするのかについては、活動時間や、参加者の実態に即して、各団体で判断をしてください。

1 山猫さま

むかし、島根県のどこかの山に、山ノ上城という城があり、その山を降りてすぐの海岸には、海砂城という城があったそうです。当時、この2つの城の殿様はとても仲が悪く、戦を繰り返していました。ただ、海岸そばの海砂城は、船を使った外国との貿易で力をつけてきており、山ノ上城にとっては、とても苦しい戦いになっていました。

そんな時、山ノ上城の殿様は、その山の山神様に、「何とか戦で勝ち、民を守れるように」とお願いをしました。すると、どこからか猫の鳴き声が聞こえてきたかと思うと、目の前に美しい女があらわれました。その女は、城で私も暮らしたいと言ってきました。殿様は、その女に一目ぼれをし、すぐに結婚しました。料理も洗濯も、テキパキとこなし、とても優しい女で、城の側で子猫を拾ってきては、可愛がっていました。本当に何でもできる女で、特に天気を占う力は誰にも負けませんでした。

ある年の夏、その女は殿様に言いました。「もうすぐ台風が来ます。城が壊れないように準備をしましょう。そして台風が去ったらすぐに、海砂城に攻撃を仕掛けるのです。海岸そばにある海砂城は、災害によって大きな被害を受けるはずですから。」

それを聞いて、殿様はすぐに城の悪い部分を修理して、台風に備えました。それから間もなく台風がきましたが、女のおかげで山ノ上城は被害を受けませんでした。一方、海砂城は城のすぐ側まで海の水が押し寄せ、大きな被害を受けました。

そこで、山ノ上城の殿様はここぞとばかりに、海砂城に向けて総攻撃をしかけたのです。台風の被害で海砂城の兵士たちは元気がなく、山ノ上城の優勢のように思えました。

しかし、思わぬことが起こりました。海砂城の殿様が叫んだの

です。

「山ノ上城の兵士たちよ。ワシの味方をしろ。そうすれば皆に金10両ずつ与えるぞ。今こそ裏切ってワシの味方になるのだ！！」

その言葉を聞いた山ノ上城の家来たちは、何と、次々と裏切って海砂城の味方になり始めたのです。いつしか、山ノ上城の殿様はあたり一面、全ての兵士が敵になってしまいました。

言うまでもなく、殿様は為す術もなく命を落としました。戦が終わり、その夜、殿様の死を知った女は、悲しみと怒りに打ちひしがれていました。泣き崩れていた女に、ピカッと月明かりが当たりました。いつもの月明かりとはちがう青白い冷たい月明かりでした。その月明かりを浴びた女は、急に立ち上がり、何と大きな大きな山猫に姿を変えてしまいました。女は山猫の化身だったのです。

山猫は怒りにまかせて、殿様を裏切ったたくさんの家来たちを皆殺しにしました。

そして、殿様の亡き骸をくわえて、山の中へ戻り、静かにうずくまって硬い大きな岩となったそうです。

自然の家の周辺には、たくさんの石垣があったり、大きな岩があちらこちらにあります。ひょっとしたら、山猫コースにある大きな岩は、その山猫の岩かもしれない。

くれぐれも、肝だめしで友達をおいて先にすすんだりしないように……。さもないと……。

2 石見のドラキュラ伝説

まだ、自然の家がこの地にできていない頃の話です。

旅人が1人、大田の方から山道を急いでいました。昔は江津の街へ行くには、この浅利富士の峠を越えなければなりませんでしたが、山に登り始めるころには、辺りはすっかり薄暗くなっていましたが、どうしても早く江津の街へ行かねばならない用事があり、暗い夜道を急いでいました。

しかし、旅人が山頂まで登った時、数匹のコウモリが月明かりへ向かって羽ばたいていったかと思うと、それまで明るく照らしてくれていた月明かりに突然、黒い冷たい雲がかかり、辺りは真っ暗になったのです。急に寒くなり、旅人は恐ろしくなりました。まっくら闇の中を手さぐりで進んでいきながら、どこかに家は見えないか、必死に探しました。見回しても見回してもまっくら闇。ときどきコウモリが、足元からバタバタと飛び出して、幾度も背筋が凍りつく思いでした。それでもなお、すり足で草木を分けて行きながら見まわすと、遠い谷底の方に、ちらりと灯りが見えたのです。

「ああ、よかった。」とまた勇気が湧いてきて、凍えた体の最後の力を振り絞って、その灯りの見える谷底へ向かい始めました。灯りは林の中…草の間から、ちらちらと見えています。旅人は夢中で、その灯りをめざして、ほとんど一直線に山を降りていったのです。

そして旅人は必死の思いで、何とかその灯りのついた山小屋にたどりついたのです。すがる思いで、ドンドンと、戸をたたきました。

「泊めてください。火にあたらせてください。たのみます…。」

中からは、うんともすんとも返事はありませんでした。戸の隙間からのぞいて見ると、確かに囲炉裏の火が燃えており、人間らしき姿が見えました。なんだか、生臭いにおいがしたようにも感じましたが、早く火にあたりたくて、ドンドンと、戸をたたき続けながらどなりました。

「助けてくれー」

「だれかなあ？おらのことかな？」

と言いながら、その人は顔を上げました。「あっ！」というのと、旅人は目をまわしてその場へひっくり返りました。山小屋の中に

いたのは人ではなかったのです。耳まで裂けた真っ赤な口，口のまわりに血がついていました。二つの眼は，真っ赤に光っています。そう，それはコウモリ男だったのです！とたんに山小屋もコウモリ男の姿も，パッと消えましたが，目をまわしてひっくり返った旅人は，それを知りません。

どのくらい経ったのでしょうか。旅人は夜露が口に入って目をさしました。あのコウモリ男の顔を思いだすと，無我夢中で，大事な荷物もなんにも投げだし，転びながら，すべりながら，かけ出し，木にぶつかってひっくりかえったりしながら，一目散に逃げ出しました。

どこかから，水音が聞こえてきました。旅人はどうやら江の川の岸にたどりついたようでした。息も切れ，凍えた体には，もうほとんど力は残っていませんでした。月明かりが再び照らし始め，川の上流のほうに渡し舟らしき人影が見えました。こんな時間に人いるだろうかと思いつつも，無我夢中になって叫びました。

「助けてー」，「助けてー」

何とか渡し舟までたどり着き，川の方を向いたままの船頭らしき人の足にすがりつきました。

ゆっくりと振り向いたその船頭の顔は，耳まで裂けた口もとは血だらけで，目は真っ赤に光っていました。そう，あの山小屋にいたコウモリ男だったのです。

「そんなに慌ててどうなすった？そんなにこの川が渡りたいのかい??」

コウモリ男はそう言うと，川の方を指差しました。その川は江の川ではなく，どす黒い真っ赤な色をした川だったのです。何百匹ものコウモリが，その川の水を静かに飲んでいました。

それ以来，コウモリ男は「石見のドラキュラ」として恐れられ，夜中に浅利富士の峠越えをする者は，いなくなったそうです。

3 ドクロ会議

まだ、自然の家がこの地にできていない頃の話です。

この近くの山道を旅していた旅人が、日が暮れたので、森の中へ入って、大きな樹の下で弁当を食べて、旅の疲れでぐうぐうと眠っていました。

夜中に、何か話し声ができるような気がして、ふと目をさますと、大きな星が木の間越しに、青白く光っていました。

するとどこからか声が聞こえてきたのです。

「・・・・・・・・・16日は、又兵衛だな。」

「そうか。何時に死ぬんだ？」

「朝の8時30分。」

「そうか。わかった。」

旅人は驚きました。又兵衛というのは叔父さんの名だったので、働き者だが、けちん坊の。そっと木の陰からのぞいてみると、星明かりでいくらか明るい樹々の下に、ぼうと黒い影があり、角のところにドクロのようなものが見えました。人がのぞいていることが分かったのか、ドクロはふっと姿を消してしまいました。

旅人は夜が明けると急ぎに急ぎました。村へ帰り着いたのは、ちょうど16日の、正午ごろでした。なにやら村人が集まって忙しそうにしていました。

「どがしたんかあ？」

「又兵衛どんが死にんさった。」

「あっ。なん時ごろだ？」

「朝の8時30分・・・・・・・・。」

それを聞くと、旅から帰った男は目をまわしてその場に倒れました。

次は都野津の人。大森銀山から帰るのに、急ぎに急ぎましたがとうとうこの山中で日が暮れてしまいました。都野津を目の前にしながら、真っ暗の山を下り、真っ暗の江川を渡るわけにもいきません。まだ10月半ばでそう寒いわけでもないのに、「まあ仕方ない」と木の下で野宿することにしました。そして、夜中、あの声を聞いたのです。

「・・・・・・・・・23日は、おきみだ。」

「そうか。何時だ？用意の都合があるからな。」

「夜の8時30分。」

「そう遅くじゃこまるんだがな。」

「それなら午後4時。」

「よかろう。」

驚いて、飛び上がりました。おきみは、母親の名ではありませんか。それからその人はもう夜道をころびながら下り、江の川を泳いで渡りました。しずくをぼとぼと落としながら家に帰り着いた時。辺りはちょうど夜が明けていました。

「早かったの。」

といって母親のおきみが出てきました。その男はびっくりして、だいぶしてから、よかった、とやっと安心と喜びが湧いてきました。てっきり病気と思ったのに、元気だったからです。

ひとまずは安心したのですが、それから2日たち、3日たち…、母親のおきみは江の川にはまって死んでしまいました。ちょうど23日の午後4時ごろでした……。

それから——いや、例をあげるのはもう、よしましょう。とにかく、ドクロの話がしだいに広がっていったのです。

ドクロは地獄からのお使いで、人の死ぬ時刻を告げるのだそうです。エンマ大王のお言いつけで、死の時刻を決め、それからそれを伝えるのです。誰にか？本人にです。一生を真面目に、懸命に働いてきた素直な人には、それが分かります。だから心静かにその準備をします。しかし大部分の人は、告げられていることに気づくことができないのです。やはり自分勝手だったり、欲ばりだったり、人に意地悪をしたりしていて、突然の死を迎えてしまうのです。

その森のあたりは、血の池地獄があったそうです。それで夜ふけに使いのドクロたちの集まりがあるのです。もちろん今も。

肝だめしの最中に、もし話し声が聞こえてきたら、その時は騒がないようにしてください。ひょっとしたら、ドクロたちの集まりの場所かもしれないから……。

活動名		星空観察・天体学習			
概要	○野外やプラネタリウムソフトなどで星や星座を観察する。				
ねらい	○野外で星や星座を観察する。 ○星や星座に関するお話を聞き、理解を深める。				
関連教科等	理科				
指導形態	①自主活動で実施，④外部講師による指導（有料）				
時期	通年	時間帯	夜	対象	中学年～
場所	創作棟前広場, つどいの広場, 第1研修室	人数	～150人程度	所要時間	0.5～2時間
準備物				団体・個人で準備するもの	
	天体望遠鏡, 星座早見盤, ペンライト			季節に応じた服装	
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・物品の準備と片づけの確認			○荒天時は相談の上、実施判断をする。 (室内でプラネタリウムソフトを使用して天体学習を行うことが可能) ○自主活動で実施の場合は活動の進め方を確認する。	
活動の説明	○天体に関するお話をきく。			○天体の不思議さにふれる。	
展開	○晴天の場合 ・天体学習の後、実際に星空を眺める。 ・季節の特徴を踏まえ、惑星や星座を観察する。 ○室内の場合 ・プラネタリウムソフトによる天体学習も可能。			○当日の日の入り時刻を事前に調べ、星空がよく見える時間帯を設定するとよい。 ○プラネタリウムソフトを使用する場合は、当日の星空や季節の星座、月の満ち欠けなど、たくさんの自動解説があるので、内容について事前に確認をしておくとうい。	
					
まとめ	○気づいたことや感じたこと、新たに発見できたことなど発表する。				
評価	○星や星座について関心をもつことができたか。 ○天体の偉大さや神秘さを感じることもできたか。				
発展	○天体望遠鏡をつかって、日中の太陽黒点観察などをしてよい。 ○自分なりにオリジナルの星座を考えてみてよい。				